

授業科目(ナンバリング)	栄養教育論Ⅲ (IB352) (実践的教育科目)			担当教員	林 俊介 (実務経験のある教員)		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	3 年・前期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ・ラーニング の 類 型
本科目は様々な病態の対象者に対する栄養教育、栄養指導を学ぶものである。栄養教育論Ⅰ・Ⅱで学修した行動科学の理論やカウンセリング技法また臨床的な栄養管理に基づいて様々な栄養教育の場、対象者のそれぞれの特性や地域性に応じた必要とされる栄養教育・栄養指導方法を選択、栄養教育プログラムの計画立案ができるようになることを目標とする。適時、授業内でディスカッション、ロールプレイングを行い、理解を深め、受講者のより効果的な学修活動を展開し、知識の定着を図る。栄養教育に関わる多様な職種の関係者や家族などの協力者との連携を図り、より効果的な対象者に対する支援ができる組織づくりのためのマネージメント能力を修得する。							① ② ③ ④ ⑤ ⑦ ⑩ ⑪
ホスピタリティを構成する能力	学 生 の 授 業 に お け る 到 達 目 標					評価手段・方法	評価比率
専門力	様々な栄養教育の場面に応じた栄養教育の方法、また個人と集団および発達段階と場に応じた栄養教育において栄養指導の効果を高める適切な方法、媒体などを選択し、計画を立案することができる。					・授業態度・授業への参加度 ・課題レポート ・定期試験	10% 10% 10%
情報収集、分析力	様々な栄養教育の場面において多様な対象者に対する栄養教育のための情報収集、分析を行い、評価し、課題を考えることができる。問題解決のための栄養教育に関する計画を立案することができる。					・定期試験 ・課題レポート	20% 5%
コミュニケーション力	様々な対象者及びチーム医療で協働する多職種対し的確にコミュニケーションを取り、適切な栄養教育に関わる実践ができる。					・定期試験 ・受講者の発表	10% 10%
協働・課題解決力	栄養教育に関わる種々の職種について理解し、それぞれの役割を踏まえた組織運営を計画することができる。チーム医療の中での管理栄養士の役割を知り、それらについて提案できる。					・定期試験 ・課題レポート	10% 5%
多様性理解力	様々な対象者(患者など)に対し、様々な疾患の病態や治療、食事療法を理解し、またライフステージや身体状況、食生活、地域性などを深く考慮し、その予防・治療のための栄養教育を考えることができる。					・定期試験	10%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
・定期試験の成績を60%とし筆記試験を行う。課題レポートは、9回目にそれまでの授業内容に係る課題を問う。 ・定期試験及び課題レポートは、それぞれの疾患の概要と標準的な治療の基本的事項を理解しているか、また栄養管理、食事療法に基づき、栄養教育の実践について理論的に説明が出来るかを評価する。授業態度・授業への参加度は、リフレクションカードやディスカッション、授業中の態度、取組み、発表、ロールプレイング、関心・意欲、質問等に対する返答で評価し、課題レポートと合わせ、ポートフォリオや授業の中でフィードバックを行う。							
授 業 の 概 要							
医療機関勤務での栄養管理や栄養指導業務の実務経験を活かし、種々の対象者の特性に合わせ望ましい指導教育内容・方法を自ら考えて導き出すことが出来るよう講義の中で様々な症例に対して栄養指導の企画、立案、ロールプレイを行う。同じ疾患でも多岐に渡る対象者の特徴を理解し、必要とされる栄養食事指導ができるよう学修を進めていく。また授業では、教科書以外に必要なに応じてプリント、パワーポイント、ビデオ映像、関連資料(医薬品や栄養剤、治療用特殊食品、補助食品)等を用いて行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：健康・栄養科学シリーズ 臨床栄養学 中村丁次他編集(南江堂) 参考書：その都度指示する。 指定図書：健康・栄養科学シリーズ 臨床栄養学 中村丁次他編集(南江堂)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
管理栄養士として、指導対象者に合わせた適切な栄養教育・指導を行うには医学的、栄養学的な知識とマネージメント能力だけではなく、社会的な常識やコミュニケーション能力も必要である。これまでの科目の学修を振り返り、授業毎にポートフォリオを確認し、指示した各回の学修内容の予習・復習に取り組むこと。また、授業中の私語、スマートフォン等の不必要な使用は、厳禁である。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	傷病者の栄養教育(1)	病院・医療機関等における栄養教育 (傷病者のための臨床栄養教育 患者教育 チーム医療 多職種連携 診療報酬 治療食)	医療における関係法規を 予習。医療現場での栄養教育について復習。
2	傷病者の栄養教育(2)	臨床栄養管理のための栄養教育 (食事療法 個人・集団指導 ベッドサイドでの栄養指導 調理教室 在宅医療 在宅訪問栄養食事指導)	ヘルスプロモーション、生活の質(QOL)について予習。臨床での栄養教育について復習。
3	障がい者の栄養教育(1)	障がい者、障がい児等 (身体・精神・内部障がい 視覚障害 福祉制度 ノーマライゼーション リハビリテーション 障がい者の日常生活 食生活 健康管理 障がい者スポーツ パラスポーツ パラリンピック)	障がいと障がい者について予習。障がい者への栄養教育について復習。
4	障がい者の栄養教育(2)		
5	代謝性疾患の栄養教育	肥満症、糖尿病、高尿酸血症、痛風 (国民健康・栄養調査 血糖コントロール メタボリックシンドローム 間食 飲酒 生活習慣の改善) <u>ロールプレイング</u>	生活習慣病の治療と栄養管理について予習。生活習慣病の栄養教育について復習。
6	小児疾患の栄養教育	小児肥満、小児糖尿病等 (小児メタボリックシンドローム 学校生活 1型糖尿病 サマーキャンプ 保護者との関係作り)	小児疾患の治療と栄養管理について予習。小児疾患の栄養教育について復習。
7	心身症の栄養教育	アルコール依存症、摂食障害等 (断酒会 患者会 食事管理 小児の摂食障害 ボディイメージ 患者・家族への支援 社会復帰)	心身症の治療と栄養管理について予習。心身症の栄養教育について復習。
8	循環器疾患の栄養教育(1)	高血圧症、動脈硬化症、脂質異常症、虚血性心疾患、脳血管疾患等 (減塩食 血圧管理 減塩調味料 脂質コントロール 合併症 後遺症) <u>ロールプレイング</u>	生活習慣病の治療と栄養管理について予習。生活習慣病の栄養教育について復習。
9	循環器疾患の栄養教育(2)	・長崎県や学修者の出身地の疾患の罹患状況など地域の特性を知り、栄養教育に活かす。 *課題レポート	
10	腎疾患の栄養教育(1)	腎疾患(慢性腎不全保存期・透析期)、糖尿病性腎症(慢性腎臓病(CKD) GFR 尿毒症 糖尿病透析予防 治療用特殊食品 低たんぱく食 透析食) <u>ロールプレイング</u>	腎疾患の治療と栄養管理について予習。腎疾患の栄養教育について復習。
11	腎疾患の栄養教育(2)		
12	消化器疾患の栄養教育(1)	炎症性腸疾患(IBS)、消化性潰瘍等 (アドヒアランス 成分栄養剤 腸炎 胃十二指腸潰瘍 潰瘍性大腸炎・クローン病)	消化器疾患の治療と栄養管理について予習。消化器疾患の栄養教育について復習。
13	消化器疾患の栄養教育(2)	肝・胆・膵疾患 (肝炎 脂肪肝 肝硬変 成分栄養剤 分岐鎖アミノ酸 BCAA アルコール性肝障害 膵炎)	消化器疾患の治療と栄養管理について予習。消化器疾患の栄養教育について復習。
14	血液疾患の栄養教育	貧血等 (鉄欠乏性貧血 妊娠貧血 葉酸 ヘム鉄・非ヘム鉄 鉄強化食 サプリメント 鉄剤) <u>ロールプレイング</u>	貧血の治療と栄養管理について予習。貧血の栄養教育について復習。
15	骨・関節疾患の栄養教育	骨粗鬆症、骨軟化症等 (骨折 骨形成・吸収 骨・ミネラル代謝 成長期・閉経期・高齢期 カルシウム・リン ビタミンD ビタミンK 食事療法) <u>ロールプレイング</u>	骨疾患の治療と栄養管理について予習。骨疾患の栄養教育について復習。
16	定期試験		